

平成22年度学校評価表

府中市小中一貫教育推進プラン

**「9年間を通して、すべての子の可能性を最大限に伸ばす教育」**  
**元気いっぱいの府中っ子の育成・かかわりの中で育つ子どもたち**

- 確かな学力(考える力 正しい知識)
- 豊かな心(思いやる心 感じる心)
- 頑張る体力(丈夫な体 規則正しい生活)

1 学校教育目標

上下学園教育目標  
**「確かな学力を身につけ、心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成」**

上下北小学校教育目標  
**「やる気、笑顔、元気いっぱいの上下北っ子の育成」**

《めざす子ども像》

- やる気 進んで学ぶ子ども
- 笑顔 明るく、かかわり合う子ども
- 元気 元気で、ねばり強い子ども

2 経営理念

**「未来をたくましく生きる基礎・基本の力が定着した児童の育成」**  
**— 地域・家庭とともに歩む学校 —**

21世紀をたくましく生きぬくため、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成を図る。そのため、学校の教育力を高めるとともに、家庭・地域との連携を深めながら家庭の教育力も高め、「確かな学力」「豊かな心」「頑張る体力」など、生きる力の基礎・基本の力が定着するように指導の徹底を図る。

3 研究主題

(1) 学園研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

(2) 本校研究主題

言語活動の充実で育む、豊かな心と確かな学力

—問題解決の過程において筋道を立てて考える力を高める算数科学習指導の工夫—

4 今年度の重点目標及び設定理由

重点目標	設定理由
○確かな学力の定着を図る。	昨年度は、県・全国の学力調査において、課題を克服し目標値を上回ることができた。しかし、算数的活用問題、基礎・基本未定着児童への対応が課題であり、さらに分かる授業づくりに取り組んでいく。
○挨拶、掃除、読書がしっかりとできる児童を育てる。	挨拶、掃除に取り組み、その成果が出た。「自分から進んで」を課題に継続して取り組む。また、読書指導・家庭読書の充実を図り、豊かな心を育てる。
○基礎体力の向上を図る。	体力テストの結果、県平均を上回る児童が多くなった。しかし、「握力」が課題である。元気な子どもづくりのために取り組みを継続する。また、生活習慣、食育を家庭と連携して取り組む。

5 評価基準

- 4 (十分達成した) 目標値より5%以上高い 3 (達成した) 目標数値%  
 2 (もう少し) 目標値より10%以上低い 1 (できなかった) 目標値より20%以上低い

※自己評価 : 評価基準に則り、4段階で評価し、記入する。評価指標は各校で定めること。

※学校関係者評価 : ○月の自己評価に対して自己評価結果が、適正である : ○、適正でない : ×、適正かどうかわからない : △として、記入する。

※この様式は、各校年間評価計画に則り、7月、12月、に活用し、中間報告はHPで公開し、最終評価結果を市教育委員会に報告すること。

推進ラン 小中一貫教育	中期経営目標	短期経営目標	目標達成の為の手立て	評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善計画
					12月 評価	結果と課題の説明	2月 適正	意見等	改善案
確かな学力	基礎・基本の学力の定着を図る。	○国語科・算数科における基礎学力を定着させる。	・漢字や計算等のドリルの時間を設定する。 ・補習を計画的に実施する	・単元末テストで85%以上達成する。	3	国語平均88.6%, 算数平均86%。5年生の「基礎・基本」定着状況調査の結果は国語79.7(県82.3), 算数79.3(県79.0)。6年生の全国学力・学習状況調査の結果は国語A89.8(全国83.3), 国語B80.7(全国77.8), 算数A80.2(全国74.2), 算数B50.6(全国49.3)。	○	・数値このとおり、適正に評価されている。指導の成果が高い数値で示されている。 ・新聞を子どもたちが読むことは、学力面でも有効である。 ・家庭での限られた時間に何をするかを子ども自身が判断することは大切。	・2月1日に実施したCRTの結果を基に、基礎学力の定着に向けて朝のドリル学習・個別指導・eライブラリーを計画的に実施する。 ・家庭学習の提出100%に向けて引き続き家庭と連携して取り組む。 ・算数の授業において数学的な考え方を伸ばすために、本年度研究したことを生かし、毎時間のめあてを明確にし、算数的活動を取り入れた思考場面を設定し授業を行う。
		○家庭学習の習慣化とその充実を図る。	・漢字、計算、本読み、書くこと(高学年は自主学習)を全学年で実施する。	・家庭学習をしていく児童の割合を90%以上にする。	3	保護者は99%, 児童は94%がしていると評価。担任の自己評価は88%。家庭学習をしてこない場合は家庭と連携した。	○	本を読んだり新聞を読んだりすることに興味が向くよう家庭や学校で取り組んでほしい。	
		○授業力の向上を図る。(小中連携)	・算数科の研究を推進し、授業改善を図る。	・算数の授業が分かると回答する児童を80%以上にする。	4	児童の90%が「分かる」と評価している。担任は86.3%の児童が理解していると自己評価している。	○		
豊かな心	人とのかかわりを大切にし、思いやりのある言動ができる児童に育てる。	○読書に親しむ児童に育てる。	・朝読書と家庭読書を行う。 ・読書記録をつける。	・1・2年は月6冊以上、3年以上は月4冊以上読む。	3	学校では、朝の読書等で目標を達成している。家庭では55%の児童が読書を行っている。7月より8%向上した。	○	・子どもたちは地域であいさつをよくしている。あいさつに関して保護者の評価が低いのは、家庭内で子どもたちがあいさつをしていないのではないのか。親自身があいさつの見本を見せる必要がある。	・PTA研修会に読書ボランティアの皆さんを招き、読み聞かせの場を設定し、家庭読書の啓発をする。 ・学級でお勧めの本を紹介しよう。 ・健康観察の時「あいさつリレー」をしくむ。
		○明るい挨拶ができるようにする。	・挨拶運動をおこなう。 ・職員自ら元気な挨拶をする。	・挨拶ができる児童を90%以上にする。	3	外部評価者は93%, 保護者は73%, 児童は92%, 教職員は87%(平均86.2%)が挨拶していると評価している。7月よりわずかに増えた。	○		

		○隅々まできれいに掃除ができるようにする。	・縦割り班で掃除をする。 ・指導者が必ず掃除指導をする。	・掃除ができる児童を 85%以上にする。	4	保護者は93%、児童は95%、教職員は88%(平均92%)が出来ていると評価している。7月より掃除ができているという評価が上がった。	○		・掃除をよくやっているの で今後もしっかり褒める。 ・掃除担当者が掃除の仕方をその都度指導する。
頑張る体力	基礎体力・運動能力の向上を図る。	○体力テストの種目が、県平均を上回るようにする。(重点課題:握力)	・課題解決に向けたサーキットトレーニングを行う。 ・外遊びを奨励する。	・新体力テストを年2回実施し県平均を上回る項目を63%とする。	3	県平均を上回った項目は53/96項目(55.2%)で6月と同じだった。俊敏性・持久力・投力・跳躍力は81.3%と上回ったが、握力・柔軟性・走力は36.7%であった。	○	・テレビやゲームの時間は以前に比べ減ってきている。「テレビやゲームの時間を減らそう。」と呼びかけるだけでなく、テレビやゲームに替わる興味が持てる選択肢を示すことも必要だ。	・体育の授業このほり棒・鉄棒・ろく木・ペアでの柔軟体操などを取り入れたサーキットトレーニングを実施する。 ・生活アンケートを学期に1回実施し「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化を図る。 ・時刻を意識させる取り組みの中で更に規則正しい生活を定着させる。 ・テレビとゲームの害について保護者に学習する場を設定し、今後もアンケートを中心に長時間視聴のテレビ・ゲーム化を減少させる取り組みをねばり強く継続する。
		○「早ね・早起き・朝ごはん」の習慣化を図る。	・アンケートを実施して、家庭への啓発を図る。	・早寝早起きの目標時刻が守れる児童80%以上にする。	3	保護者は79%、児童は82%が早寝早起きをしていると評価している。9月に実施した「生活アンケート」では、午後10時までに寝た児童が78.2%、午前7時までに起きた児童が95.4%	○		
		○テレビ・ゲームの時間を短くする。	・アンケートを実施して、家庭への啓発を図る。	・全児童の平均3時間以内を80%とする。	3	9月に実施した「生活アンケート」では、児童は71.3%が守られていると自己評価している。保護者は80%と評価している。	○		
信頼される学校	教職員の資質、指導力を向上させる。	○組織的に実践できる人材を育成する。	・評価表の各担当で7月と12月に進捗状況を把握して取り組む。	・自己評価の平均を7月時点では3以上、12月時点では3.5以上にする。	3	教職員の自己評価は3.4であった。	○	・学校は先生たちの総合力によって運営される。今後も先生一人一人の個性を大切にし、組織的に取り組んでほしい。	・学校評価の分析を基に各部で分掌の反省を行い、来年度の計画を立てる。